

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 77 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 77 回 : 2017 年 5 月 24 日 (水) 13:30~17:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 橋本幹事, 岡野, 岩谷, 喜多, 田中, 小谷, 佐藤 (輝), 黒岩,  
鈴木 (谷口代理), 小森 (11 名)

(常時参加者) 濱口, 野村 (2 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-77-1 第 76 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-77-2 人事について

P4SC-77-3-1 停止時 PRA 標準改定案

P4SC-77-3-2 停止時 PRA 標準改定に係るコメントへの対応

P4SC-77-3-3 停止時 PRA 標準改定に係る標準委員会報告

P4SC-77-4-1 内の事象 L1PRA 標準の統合性能化の進め方 (案)

P4SC-77-4-2 内の事象 L1PRA 標準 議論検討用

P4SC-77-4-3 適用可能な手順及び実施例 議論検討用

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 11 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。  
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 76 回議事録の確認

資料 P4SC-77-1 を用いて第 76 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いた  
だくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-77-2 により, 大滝常時参加者の解除が報告され, 新たな常時参加者として丹野  
候補の登録が了承された。

#### (4) 停止時 PRA 標準の専門部会コメント対応について

資料 P4SC-77-3-1 から資料 P4SC-77-3-3 により、前回分科会で議論した停止時 PRA 標準改定案の専門部会投票でのコメント対応について確認し、専門部会の了承が得られれば次回標準委員会に本報告することとなった。主な議論は以下のとおり。

- ・解説 8 の修文につき文章として不明確な部分があり、再修正する。また、古い記載が残っており、現状には必ずしもそぐわないため、当該部分を削除する。
- ・箇条 6.4 の箇条書きの書式が他の部分と異なるため、今後の誤記チェック等で調整する。
- ・追加した附属書 L で「熱水力解析、構造解析等」としている箇所は、将来の出力時・停止時の統合等の状況により必要に応じて「解析」などの記載振りを検討する。
- ・標準委員会報告資料において、リスク専門部会への対応部分の記載を判り易く修正する。

#### (5) 標準の統合性能化の進め方について

資料 P4SC-77-4-1 から資料 P4SC-77-4-3 により、従来から分科会で計画されていた出力運転時・停止時のレベル 1PRA 標準の統合と、専門部会から検討依頼が発出されている標準の性能規定化に関する検討の進め方について議論を行った。主な議論は以下のとおり。

- ・性能化により目的を持つ標準とするのであれば、標準の構成・あり方などを標準間で共通化していく必要がある。これには分科会からのボトムアップだけでは対応しきれず、専門部会においても並行した検討が必要。これらを統括する共通の標準も必要ではないか。
- ・性能化により目的・機能的要求・要求水準として規定化していくと、内的事象 1PRA では米国 ASME/ANS 標準との違いが不明確になる可能性がある。検討の中で国内標準としての位置付け・あり方を意識していく必要がある。
- ・標準委員会の定義における指針 (Guide) の位置付けが必ずしも明確でなく、今後の検討進捗などにより議論していくことも考えられる。この中で、パラメータ推定実施基準の位置付け・扱いなども整理していくことが考えられる。
- ・性能化により仕様規定関連は、技術レポートなどで別出しにすることになるが、本体規定と技術レポート類は使用する側からは同時に発行されることが望まれる。今後の作業量との兼ね合いにもなるが、できるだけ同時発行を目指すこととし、技術レポートとしてはまず附属書 (参考) を中心とした纏め直しから始める。検討工程は、進捗により適宜見直していくものとする。
- ・最新知見の反映などは、性能化後においては技術レポート類の充実化につながる。今般検討では本体規定の統合性能化を主とし、技術レポートは現状内容をベースに必要最小限の知見反映とする。
- ・SFP の扱いは改定中の停止時 PRA に同じく、炉心とは独立したモデル化を前提とした規定とする。炉心と SFP の相関は、現状の評価状況もあり、統合性能化の後の検討とする。
- ・要求水準を充実していく中で、各種スクリーニング関係の基準の明確化が議論となる可能性がある。どこまで検討・規定できるかは一つの課題になると考えられる。

(6) スケジュール, その他

次回分科会は事前調整のとおり 6 月 22 日 PM とする。また, 関連するスケジュールは以下のとおり。

- 5 月 30 日 リスク専門部会 (停止時 PRA 標準改定案 部会投票コメント対応など)
- 6 月 7 日 標準委員会 (停止時 PRA 標準改定案 本報告)
- 6 月 22 日 第 78 回 レベル 1PRA 分科会
- 7 月 11 日 リスク専門部会 PRA 活用検討タスク
- 7 月 20 日 第 79 回 レベル 1PRA 分科会 予定 (停止時 PRA 標準委投票対応)
- 8 月 30 日 リスク専門部会 (停止時 PRA 標準委投票対応)
- 9 月 6 日 標準委員会 (停止時 PRA 標準委投票対応)

以上